

公立学校に求められること
～生徒と伴走しつつ“主権者意識”を育てる役割・機能および責務～



第1回 研究部会

府立人研だより

大阪府立学校人権教育研究会事務局
2022年9月20日 第8号発行

10月14日(金) 14時より府立柴島高等学校にて開催

◆お願い◆ 名札と上履きをお持ちください。マスク着用・消毒・検温等にご協力ください。

教材	進路保障	ケーススタディ
<p>教材にかける思い ～生徒たちに何を感じ、何を学んでほしいのか～</p> <p>報告：野崎高等学校 北摂つばさ高等学校 すながわ高等支援学校</p>	<p>誰ひとり切り捨てない教育にこだわるからこそ</p> <p>～発達障がいのある生徒の保護者の思いに学ぶことから～</p> <p>報告：柴島高等学校</p>	<p>SSWを効果的に活用する「チーム」づくり</p> <p>講師：野田 満由美さん (西成高等学校SSW)</p> <p>報告：布施北高等学校 桃谷高等学校Ⅲ部</p>
<p>部落問題学習を限られた時間でどう展開するか、何を目標にしたらよいのか…、と悩んでいる方も多いのではないのでしょうか。</p> <p>前半は複数の学校から実践報告をしていただきます。どのような思いで部落問題学習を計画されているのか、教材づくりのエピソードや実際の授業での生徒の反応などについてお話ししていただきます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"><p>部落問題学習教材交流 & 教材づくりワークショップ</p></div> <p>後半では、部落問題学習に関する教材を交流し、より良い教材へとブラッシュアップするワークショップを行います。学校で実際に使用された教材やこれから使用する予定の教材案などを30部コピーしてお持ちください。まだ形になっていない簡単な案でもOKです。部落問題学習の教材づくりに悩んでいるみなさんの積極的なご参加をお待ちしています！</p>	<p>発達障がいのある生徒についての理解・認識と適切な支援は、今日すべての学校における教育課題となっていますが、実際には教職員の思いが空回りしたり指導方針の一致が難しかったりと、必ずしもうまくいったケースばかりではないのではないのでしょうか。</p> <p>今回はまず、発達障がいのある子どもを育てる保護者から聞き取りを行い、その思いに真摯に学ぶことから始めます。次に、参加者で「では自分は何ができるか」を考えますが、その時に教職員が「自分一人ですらどうしようねん」と抱え込むことにならないよう、課題を参加者間で共有しながら進めていきたいと思えます。また、教職員からの直接支援だけでなく、生徒集団づくりの観点から参照できる実践例の報告も行います。うまくいくための方法だけではなく、尊厳やプライドをもって教育に取り組むためのヒントや考え方についても話し合っていたらと思います。</p>	<p>今年度から全校でSSW(スクールソーシャルワーカー)の活用が可能になりました。「限られた時間の中で何を相談するのか」「そのために何を準備しなければならないのか」「教職員とどう連携し、どう動いてほしいのか」「校内の調整はどの役割の人が担うのか」このような悩みをもつ教職員、様々な事例の対応に困っている教職員への明日から役立つ情報をお届けしたいと企画しています。「アセスメント」や「プランニング」の活用方法を学ぶことで、今後の生徒対応に生かすことや、SSWとどう組織づくりをしていくか等についてのヒントがこの部会で得られると思えます。</p> <p>生徒たちが安心して学校生活を送ることができるよう、SSWも含めて学校全体で支えていきましょう！参加者のみなさんで一緒にどのような支援が大切かを交流しながら考えていきたいと思えます。他にも悩まれていることがあれば、ぜひケーススタディ部会へお越しください！</p>

府立人研 大阪府立学校人権教育研究会

〒533-0024 大阪市東淀川区柴島1-7-106 府立柴島高等学校内
(逡送便は「府立人研」とお書きください。)

TEL・FAX 06-6324-3822 (直通) (お電話の場合は、火曜日をお願いします。)

Mail furitsujinken@nifty.com (お問い合わせは、なるべくメールをご利用ください。)

URL <http://furitsujinken.in.coccon.jp/>



↑府立人研HPもチェックしてくださいね

「府立人研だより」の掲示・配布をお願いいたします。各校の人権教育の充実にお役立ていただけましたら幸いです。